

肱川で採集されたカライワシ *Elops hawaiiensis* Regan

高橋弘明・橋本健一・東 健作・平賀洋之

カライワシ *Elops hawaiiensis* Regan はカライワシ目カライワシ科に属する原始的な硬骨魚類で、国内では茨城県利根川以南、国外ではインド・太平洋域、ハワイ諸島に分布することが知られている(藍澤, 1993; 上野, 1988). 著者らは今回、愛媛県肱川水系において本種幼魚 1 個体を採集した。これは愛媛県における本種の初記録となるため報告する。

材 料 と 方 法

当該標本は、河川敷に形成された水溜まり内に仕掛けた刺網(幅10m, 高さ1m, 目合い 15mm)により採捕された。採集個体は直ちに 10%ホルマリン水溶液で固定し、室内で各部の計数および計測を行った。標本の計数, 計測方法, 学名および分類体系は中坊編(1993)に従った。本報告に用いた標本は徳島県立博物館魚類標本(TKPM-P)として登録, 保管した。なお, 標本に対する記述は標準番号, 標準体長, 採集年月日, 採集地点および標準地域メッシュコード(環境庁, 1997)の順である。

記 載

Elopiformes カライワシ目

Elopidae カライワシ科

Elops hawaiiensis Regan カライワシ(図 1)

TKPM-P 09131, 76.1mmSL, 1998年10月6日, 愛媛県大洲市八多喜, 祇園大橋直上, 5032-24-63.

背鰭23軟条, 臀鰭16軟条, 尾鰭23(11+12)軟条, 胸鰭14軟条, 腹鰭13軟条, 鰓条骨数31, 鰓耙数22(7+15). 全長121.4%(標準体長に対する百分率, 以下同様), 頭長28.5%, 体高15.5%, 体幅(背鰭起点)10.2%, 体幅(臀鰭起点)7.1%, 背鰭前長52.6%, 腹鰭前長51.1%, 背鰭基底長15.7%, 腹鰭基底長13.3%, 尾鰭長15.8%, 尾柄長12.4%, 尾柄高7.9%, 胸鰭長15.0%, 腹鰭長14.7%. 頭高(眼の位置)41.5%(頭長に対する百分率, 以下同様), 両眼間隔23.5%, 眼径24.0%.

体は著しく伸長し, 側扁する。下顎は上顎前方に突出し, 口は上向する。頤部に明瞭な喉板を有

する。背鰭は三角形で後端は糸状に伸長しない。尾鰭は二叉し, 中央部は深く湾入する。生時の体色は銀白色で体側に明瞭な斑紋を欠く。上顎先端から尾鰭基底の背面にかけては茶褐色。下顎先端と喉板先端部は黒褐色を帯びる。

考 察

調査標本は上野(1988)および藍澤(1993)のカライワシ *Elops hawaiiensis* Regan に良く一致する。

本種は暖海沿岸性の表層魚であるが, 幼魚は内湾や河川の汽水域あるいは淡水域に侵入することが知られ, 茨城県利根川, 三重県内の運河, 高知県四万十川, 浦戸湾, 熊本県緑川等から報告されている(藍澤, 1993; 蒲原, 1958; 中村, 1993; 岡村, 1990). また, 汽水湖や河川河口部に隣接した池からの採集例が, 高知県絶海の池, 潮江の池(埋め立てにより現在は消滅)から報告されているほか(蒲原, 1958), 著者らのうち高橋・橋本(未発表)は, 高知県吾川郡春野町内の小河川脇に, 道路工事の水抜き用に造られた水溜まりから本種幼魚数個体を採集している。今回本種が採集された場所は, 肱川の河口から約 9.5km 上流の右岸側高水敷に形成された水溜まりで, 平水時には本流と隔離されている。なお, 水溜まり付近の本流は感潮域

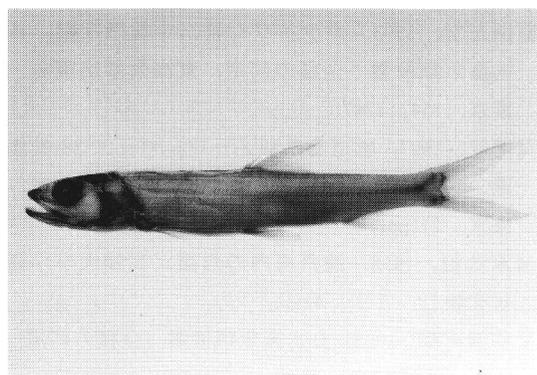


図 1 *Elops hawaiiensis* Regan カライワシ
TKPM-P 09131, 76.1mmSL

にあたる。調査時の水溜まりは、大きさ約50m×20m、最深部で水深約1.5m、水際には糸状緑藻類が多く繁茂し、底質内部は黒く還元状態にあると思われた。また、この水溜まりでは本種のほかに、ゲンゴロウブナ *Carassius cuvieri*、ギンブナ *C. auratus langsdorffii*、タイリクバラタナゴ *Rhodeus ocellatus ocellatus*、オイカワ *Zacco platypus*、モツゴ *Pseudorasbora parva*、ブルギル *Lepomis macrochirus*、ボラ *Mugil cephalus cephalus*、カワアナゴ *Eleotris oxycephala* が採集された。淡水域での本種の出現は幼魚期における一時的な現象と考えられること、ボラやカワアナゴといった周縁性あるいは両側回遊性の種が同じ水溜まり内から採集されたことを考え併せると、本種もこれらの種と同様に、増水時に本流から侵入し、その後の水位低下により水溜まり内にとり残されたものと考えられる。

なお、瀬戸内海における本種の出現は希で、本報のほか、1998年夏に兵庫県の揖保川と加古川および大阪湾からの採集例があるに過ぎない(鈴木寿之氏、私信)。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、原稿を御校閲頂いた愛媛県魚病指導センターの清水孝昭氏、標本の登録・保管を快諾頂いた徳島県立博物館の佐藤陽一博士、貴重な情報を御提供頂いた兵庫県立尼崎北高校の鈴木寿之氏に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 藍澤正宏. 1993. カライワシ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会, 東京, 154, 1247.
- 環境庁. 1997. 都道府県別メッシュマップ 38 愛媛県. 環境庁自然保護局計画課自然環境調査室, 東京, 111pp.
- 蒲原稔治. 1958. 浦戸湾内の魚類. 高知大学学術研究報告, 7(13): 1-11.
- 中坊徹次編. 1993. 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会, 東京, xxxiv+1474pp.
- 中村守純. 1993. 原色淡水魚類検索図鑑(第8版). 北隆館, 東京, 262pp.

岡村 収. 1990. 四万十川の動物-魚類. 伊藤猛夫編, 四万十川〈しぜん・いきもの〉. 高知市民図書館, 高知, 221-306.

上野輝彌. 1988. カライワシ. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, 日本産魚類大図鑑(第2版)日本語解説版. 東海大学出版会, 東京, 20-21.

(たかはし ひろあき・はしもと けんいち 〒780-0812 高知県高知市若松町9-30 株式会社西日本科学技術研究所. あずま けんさく・ひらが ひろゆき 〒787-0019 高知県中村市具同1167-2 株式会社西日本科学技術研究所中村分室)